

第31回全日本大学 9ブロック対抗準硬式野球大会

会期：平成25年11月15日（金）～11月17日（日）

会場：嬉野市みゆき球場・鹿島市民球場・伊万里市国見台球場

主催：全日本大学準硬式野球連盟

主管：九州地区大学準硬式野球連盟

◎予選Aリーグ

11月16日 嬉野市みゆき球場

第一試合

全関西選抜 000001302 6

全東北選抜 000000000 0

(関) 塚・東川・越智一小林・財前

(東) 小畑・緑川・高崎・小野寺一菅原・福田

☆三塁打 田中 (関)

☆二塁打 木村 (東)、松田 (関)

〈戦評〉

塚 (関西)、小畑 (東北) の両先発投手の投げ合いで始まった試合は6回、全関西選抜が3番小平の適時打で先制、7回には大角、松田の適時打などで3点を挙げ、試合を決めた。

第二試合

全北信越選抜 210000001 4

全東北選抜 00100121× 5

(北) 五十嵐・大久保一和田

(東) 信夫・和田・前田一氏家

☆三塁打 高橋 (東)

☆二塁打 田中 (北)、木村2 (東)

〈戦評〉

序盤は全北信越選抜が5番田中の2点適時打などで試合を優位に進めたが、全東北選抜は7回、4番村上、5番木村の連続適時打で逆転、9回には、ショート石川のファインプレーで全北信越選抜の反撃を1点で止め、試合を制した。全北信越選抜は9回2死から1点を返したが、逆転の好機を生かせなかった。

第三試合

全北信越選抜 000010000 1

全関西選抜 00200700× 9

(北) 久保田・西川・澤田・五十嵐一高崎

(東) 能塚・山口・東川・香川一堀口

☆二塁打 土川 (関)、高崎 (北)

〈戦評〉

前半戦は両投手陣の力投によるシーソーゲームとなったが、6回裏、全関西選抜は5番岡田の適時打を皮切りに、3連続適時打やスクイズなどで一挙7点を挙げ試合を決めた。

◎予選Bリーグ

11月16日 鹿島市民球場

第一試合

全関東選抜 002000200 4

全東海選抜 000000200 2

(関) 戸津・大谷・石田一清水

(東) 岡田・池田・細江一小倉

☆二塁打 箱田 (関)

〈戦評〉

全関東選抜は3回、4番箱田の一打で2点を先制し、投げては戸津、大谷、石田の3投手が全東海選抜打線を2点に抑え勝利した。全東海選抜は、7回裏に2点を返すものの、その後のチャンスであと一打がでなかった。

第二試合

全四国選抜 100000000 1

全東海選抜 10301300× 8

(四) 尾崎・五藤・福田・河崎一石橋・鮫島・岡田

(東) 藤吉・中田・繫竹・片山一金子・山中

☆本塁打 高岸 (東)

☆二塁打 横田・三好・藤田 (東)

〈戦評〉

全東海選抜は、高岸の3ランホームランを含む10安打8得点で全四国選抜を圧倒した。全四国選抜は、初回に先制するものの試合を優位に進めることができなかった。

第三試合

全四国選抜 000000000 0

全関東選抜 00100310× 5

(四) 川上・掛本一岡田

(関) 赤尾・大竹・石田・河合一石塚・木藤

☆二塁打 竹林・嘉悦 (関)

〈戦評〉

試合序盤は両チームの投手の好投により1点を争う緊迫したゲーム展開となったが、中盤以降は全関東選抜の打線が全四国選抜の投手川上を攻略し勝利を納めた。

◎予選Cリーグ

11月16日 伊万里市国見台球場

第一試合

全九州選抜 2 0 0 0 0 1 0 0 2 5

全北海道選抜 0 4 0 0 0 0 0 0 0 4

(九) 松尾・岩井・田代一村上

(北) 浜田・伊藤優一蜂谷

☆三塁打 大津留(九)、蜂谷(北)

☆二塁打 林(北)

〈戦評〉

4対3で迎えた9回に全九州選抜は2死1,3塁から主将大津留がセンターオーバーのタイムリースリーベースを打ち逆転し、試合を決めた。

第二試合

全中国選抜 0 0 0 0 0 1 0 1

全北海道選抜 5 0 2 3 0 0 1× 11

(7回コールド)

(中) 上田・三ヶ島・三田一花岡・川津

(北) 銭谷・西村一橋本

☆二塁打 及川・沼口・安井・伊藤・橋本(北)、花岡(中)

〈戦評〉

序盤からペースを掴んだ全北海道選抜が11得点を挙げ勝利した。投げては上田、三ヶ島、三田のリレーで7回1失点に抑えた。

第三試合

全中国選抜 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

全九州選抜 2 0 0 1 0 0 0 3× 7

(中) 幸地・丸尾・岩崎一上川路・河津

(九) 平倉・御厨・野口・西依一河村・村上

☆三塁打 河野・大津留(九)

☆二塁打 大津留(九)

〈戦評〉

先取点、中押し、ダメ押しと理想な形で点を取っていった全九州選抜が、計13本のヒットを放ち勝利した。投げては、先発の平倉を初めとする4人の投手が被安打2本の完封リレーで抑えた。

◎決勝トーナメント

11月17日 鹿島市民球場

準決勝 第一試合

全関西選抜 3 0 0 0 1 0 2 1 0 7

全北海道選抜 0 0 0 0 0 2 0 0 0 2

(関) 越智・小田・山口・東川—小林・中小路・財前

(北) 西村・伊藤・齋藤・松元・浜田—蜂谷・高橋

☆三塁打 島川 (北)

☆二塁打 堀井2 (関)

〈戦評〉

初回、全関西選抜は6者連続安打で3点を先制すると中盤、終盤も得点を重ね7得点を挙げ勝利した。全北海道選抜は2点を返すものの、全関西選抜の投手陣を打ち崩すことができなかった。

準決勝 第二試合

全関東選抜 0 5 0 0 0 0 0 0 0 5

全九州選抜 0 0 0 0 0 2 0 0 0 2

(関) 赤尾・石田・大竹・河合—石塚

(九) 田代・的野・西依—河村・松永

〈戦評〉

全関東選抜は2回に全九州選抜の投手田代を攻め一挙5得点を挙げ、投げては赤尾、石田、大竹、河合が好投をみせ、全九州選抜を抑え勝利した。全九州選抜は2回以降0点に抑え、2点を返すも一歩及ばなかった。

決勝

全関東選抜 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1

全関西選抜 1 0 0 0 0 1 1 0 × 3

(関東) 戸津・石田・大谷—清水・石塚

(関西) 能塚・越智・香川—堀口

〈戦評〉

両チームとも1点を争う緊迫したゲーム展開の中で、全関西選抜は中盤にスクイズや相手のエラーで追加点を挙げると、最後は香川投手が0点で抑え4年ぶり6度目の優勝を勝ち取った。全関東選抜は、チャンスを作るもあと一打がでず3連覇を逃した。

◎表彰

優 勝 全関西選抜

準優勝 全関東選抜